

和洋×新旧が奏で合う 古民家の健やかな息吹

「ハウスランド社」の展示場
モデル住宅「風のくら」

外から見ると昔懐かしい古民家の佇まい。けれど扉を開けると、西洋の雰囲気も溶け込むノスタルジックでおしゃれな空間が広がる。「ハウスランド社」が手掛けるモデル住宅で、古民家の新たな可能性と魅力を見つけました。



モデル住宅「風のくら」は、築140年ほどの古民家。今や希少な建築が贅沢に使われており、外観は昭和風だが、家の中は西洋の住空間を彷彿させる住まい



広々とした玄関は、土間付きの住居ならではの異質な空間。ご近所さんなども集まりやすい開放感が魅力



檜の間に、小窓の影を映した浮き上がり仕上げ。表面につけた年輪の凸凹が、裏面に馴染んで気持ちいい



太い梁や小屋根などを開放し、建物の骨組みを見せて、草の葉に揺すのかが内装のアクセント。白は白のアクセント。色のガラスはクラシカルな雰囲気を演出。壁のレンガは久留米製。和と洋が見事に調和している

土間の再生で開花した、 日本×西洋の特別な住まい

どっしりとした梁や柱、アンティーク感が伝わるテラコッタのタイル、温もりを放つ無垢材の造作棚、色ガラス付きの扉。玄関から一歩入ると、和と洋が奏で合う素敵な空間が広がる。スケールの大きさに感動する。まさか築140年根の家の中間が、こんなに洗練されているとは、正直驚いた。

このモデル住宅「風のくら」を手掛ける「ハウスランド社」の代表・三上さんによると、昔ながらの古い日本家屋は、インタナショナルなポテンシャルを待っている。本物と呼べる天然素材で作られているからでしょう。さまざまなテイストを受け入れられる懐があるんです。スイスなど、ヨーロッパの田舎にも「風のくら」のような家屋があり、そこでも地の自然のものを材料にして、伝統技法で作られている。国は違えど、家づくりの根っこ部分が共通している。それぞれを融合させて、パラスが取れて、調和するのだ。



鉛りガラスとフランス製の色ガラスをコラボした、スタイリッシュな開き戸